

# 西照

西照寺寺報「さいしょう」

第11号

2005年1月6日

発行 浄土真宗本願寺派 西照寺  
高岡市吉久2丁目4-40

## 御正忌報恩講勤修

左記のとおり御正忌をお勤めいたします。

お参りくださいませ。

おつとめの時間

一月十五日 午後二時(逮夜)〜

午後七時(初夜)〜

十六日 午前九時半(日中)〜

布教使 矢口千代磨師(羽咋郡志賀町光念寺住職)

西谷山 西照寺

## 報恩のこころ

—感謝と慚愧—  
さんき

大阪市立大学に金児暁嗣(きんこ せうじ)という先生がおられます。西本願寺派のお坊さんで、「宗教と行動」について調査・研究をされている方です。その先生が平成十年に『日本人の宗教性とその心理的効果』と題してお話をされた講演録を読んだことがあります。

その中で「生活満足度」という話をされています。印象に残っています。

NHKとかいろんな新聞社が全国の県民意識調査をしてみると、「今の生活で十分であり、非常に満足だ」というような回答のポイントが、北陸は高いのだそうです。常に上位三位以内に入る。福井県などは、知事さんが「生活満足度日本一」を県政の謳い文句にされているそうです。

何故こんなに高いんだろう？ 福井県はそんなに裕福な県でもないだろうに、【中面】

【前面から】「どうも疑問だと先生は思っておられた。」

ある時、福井新聞から「生活満足度日本一」というのは浄土真宗の信仰が関係をしているのではないかと調べてほしい」という要請があった。ご存知のように福井県の越前吉崎は、蓮如上人が数年間房舎を建立されて、浄土真宗大隆盛の拠点となったところです。「御文章」のほとんどはこの地でつくられています。

そこで、県民の「あなたの家の宗教は何ですか」というサンプル調査を試みた。すると60%が浄土真宗であった。全国でも最高ではないか。北陸三県での浄土真宗寺院が占める割合は、他宗派に対して圧倒的に高いわけです。

それから、福井県と大阪市大の男女学生の宗教調査をされたそうです。そうする大阪の学生に対して、福井県の学生のほうが「おかげさま意識」のポイントが高いという結果が出た。また「感情バランス」というテストをしたと言われる。感情バランスというのは、人間は何か身の回りによいことがあれば嬉しく思います（快感情）。その反対に腹の立つことがあれば不快になります（不快感情）。その差し引きがプラスで

あれば「気持ちが良い」という感情になりますし、マイナスが強ければ「不愉快」な感情になる。感情のバランスがプラスかマイナスかを調査するテストだそうです。

そうしますと大阪市大の学生はマイナスですよつちゆうイライラしている。それに対して福井県の学生は感情バランスがうまくとれているという結果が出たそうです。

結論から言うと「おかげさま意識」が強くなればなっていくほど、私たちの感情バランスがプラスの方向へ向いていくとお話されていました。

「おかげさま」とご恩を感じる意識の高まりが、心の平安や生活の満足へとつながっているという指摘かと思えます。そして、それは北陸三県が常に生活満足度の上位を占めていることから推測されるように、ただ単に経済的な豊かさからもたらされるものではないということです。どんな状況にあるうと自分の中におかげさまと感謝できる心を持てるかどうかが、重要なポイントだということでしょう。

浄土真宗は、長い歴史を通して報恩講を営み、親鸞聖人のご恩徳を偲びながら、もろもろのご

恩を感じ取る感性を養ってきたように思います。北陸が上位を占めているということに、そのことも少なからず影響しているのではないのでしょうか。



### 間違ったご恩

ご恩をおかげさまと感謝する心は大切です。しかし、そう言われれば言われる程、私は何か得体の知れない抵抗感を覚えます。

少し前にテレビで北朝鮮の様子を映していました。小学校のクラスでチョコレートを配っています。「今日は特別の日で將軍様からチョコレートを皆さんにいただいた。將軍様のおかげでこんな良いものがもらえるのだから、感謝しなくてはダメです。」というようなことを先生が言っていました。

なるほど、得体の知れない抵抗感とは、こういうことなのかと思いました。

世界や日本の長い歴史を通して、「將軍様」「お上」「親」という上の立場のものが、「国民」「子」という下の立場のものに不平不満を言わせないために、この言葉が使われてきた側面があります。親が子どもに、親の方から「親のおかげ」を言う時は、大抵子どもに言うことを聞かせるためです。国家が「国のおかげを感謝しなさい」と国家側から教育することは、国民に多少不満があっても「がまんしなさい」ということになつていくのではないのでしょうか。

これは明らかに間違つた使い方です。仏教はそのような使い方を教えていないと思います。自ら恩を知ることが大切であると教えているのみです。



## 仏智に照らされて

さらに、おかげさまや感謝ということを仏法から学びたいと思います。

私たちはどういう時にこの言葉を使うのでしょうか。大抵は自分に都合がよい時に使います。「おかげさまで受験にすべりました」とか「癌になりましたが感謝しています」というような使い方は、余程宗教的素養がない限り、ほとんど使いません。ということはどういうことかと言ふと、謙虚におかげさまと振り返っているように見えても、内実は自分の欲望が満たされたことを喜んでいただけじゃないのか。極論を言うとなつてなると思います。

仏智に照らされるとそういう自分が見えてくる。そこに深い慚愧が生まれます。

『涅槃經』というお経に阿闍世王子の話がでてきます。耆婆大臣が積尊の教えとして

「大王、諸公世尊つねにこの言を説きたまはく、二つの白法あり、よく衆生を救く。一つには慚二つには愧なり。慚はみづから罪を作らず、愧は他を教へてなさしめず。慚は内にみづから羞恥す、愧は発露して人に向かふ。慚は人に羞づ、

愧は天に羞づ。これを慚愧と名づく。無慚愧は名づけて人とせず、名づけて畜生とす。慚愧あるがゆゑに、すなはちよく父母・師長を恭敬す。慚愧あるがゆゑに、父母・兄弟・姉妹あることを説く。」と書かれています。

自らの在り方を恥じ入るといふ心があつて、はじめて人間が人間に成つていくんだ。人と人との関係が成り立つ。そして、放つておけば自分の都合しか考えない畜生道のような私の生活が、慚愧を通して人間性を回復していくことになる。という思ひ召しかと思ひます。

私たちはなかなか慚愧ということができません。どこまでいっても自己中心的な「おかげさま意識」から抜けきれません。そういう私が阿彌陀仏のお心に触れると自然に慚愧の心がめぐまれてくる。そこから本当の「おかげさま」の世界が開けてきます。

自分のことしか考えていない(罪を背負つた私) 私なのに、生かされ支えられてある今がある。

深いよるこびと生きる力、他の人々への報恩の歩みがそこからはじまるのではないのでしょうか。(文責任職)

## 真宗の行事

## ごしょうきほうおんこう 〈御正忌報恩講〉

御正忌報恩講は親鸞<sup>しんらん</sup>聖人<sup>しょうじん</sup>の祥月<sup>しょうげつ</sup>命日<sup>めいじつ</sup>に御遺徳<sup>ごいとく</sup>をしのび、ご恩を報謝しようと営まれる法要です。親鸞聖人は弘長<sup>こうちやう</sup>2年（1262年）11月28日にお亡くなりになりました。西本願寺では、これを太陽暦に改めて、1月16日を祥月命日としています。1月9日より16日までの七中夜<sup>しちちゆうや</sup>（7日間）おつとめしますので、七中夜法要<sup>しちちゆうやほうやう</sup>とも言います。大谷派（東本願寺）では、旧暦により11月21日より28日まで勤修<sup>ごんしゆう</sup>されています。



親鸞聖人

この法要にお参りできるように、本願寺の御正忌を避けて、西本願寺派末寺や門信徒の間では前年の秋期などに引き上げて報恩講をお勤めしています。かといって、現実に門信徒総てが本願寺へお参りはできません。そこで、地元においても御正忌に聖人のご遺徳を偲びたいという思いから、各末寺でも御正忌報恩講がお勤めされるようになりました。

親鸞聖人は「帰命はすなはちこれ礼拝なりと。しかるに礼拝はただこれ恭敬<sup>くぎやう</sup>にして、かならずしも帰命ならず。」と言われます。帰命の心があれば必ず外に礼拝という形として現れる。しかし、形だけ礼拝をしてもそこに帰命の心があるとは限らない。だから、礼拝をしている時も、ただその行為に満足することなく、帰命の心が本当に私の中にあるのか、礼拝から帰命の心を学ぶことが大切だと教えてくださっています。

報恩の心についても同じようなことが言えるでしょう。

親鸞聖人のご恩徳は、私たちに真実のより処、すべての人々を救うという阿弥陀仏のおこころに従って生きることの力強さやよろこび、自らの死を乗り越えていける道を教えてくださったことであると思います。亡き先祖方もそのみ仏のおこころに帰っていかれました。

この親鸞聖人を追慕する報恩講の儀式（集い）を通じて、私を支え生かして下さっているさまざまなたらきに思いを致し、また、亡き先祖方が帰っていかれたほとけさまのおこころに思いを致したいものです。